

まえがき

あなたの「名医」を見つけるために

医師本人や、その家族が がんになったときに かかりたい実力医師93人

がん診療に精通・定評のある実力医師を
掲載〈備後エリア除く〉

本書は、9年前に発刊した『決定版 迷ったときの医者選び 広島』の改訂版「がん診療編」です。自分や身近な人が**がん**になったときに、納得した治療を受けるための医療評価ガイドです。

掲載医師の選定にあたっては、取材チームが各専門医に面接取材を行い、実施している最新治療の内容を聞くとともに、あわせて、同じ疾患および関連する領域の専門医を推薦してもらう方法をとっています。**掲載医師は、備後エリアは含まれていません**(下記参照)。

推薦基準は、「**医師本人や、その家族が“がん”になったときにかかりたい専門医**」です。

信頼できる情報をより詳しく伝えるため
「がん診療編」「診療科編」「備後地区編」の
3分冊で刊行

「迷ったときの医者選び広島」シリーズ(初版刊行1999年、本書で5版目)では、「がん」だけでなく、脳神経外科・循環器内科・心臓血管外

科・整形外科・生活習慣病・眼科・皮膚科・精神科など「ほぼ全診療科（一部の科は掲載なし）」の実力医師を紹介してきました。

このたび、読者に信頼できる情報を、より詳しく伝えるため「がん診療編」（本書）、「診療科編（仮）」（2020年1月刊行予定）、「備後地区編（仮）」（2020年初夏刊行予定）の、計3冊に分冊しました。

本書では、広島県内（備後地区版を除く）で、**がんについての最新治療に精通・定評のある専門医計93人を、ほぼ全身のがんについて部位別に**紹介しています。

※本書「がん診療編」は、総合病院などの専門医情報を掲載しており、開業医などかかりつけ医情報は、原則として掲載しておりません。地域の開業医などの情報は、本書・姉妹編の「迷ったときのかかりつけ医広島シリーズ」をご参照ください。

患者目線で、一人ひとりに 最適な治療をする専門医を選定

さらに、取材チームの一人ひとりが医師に会った際、**「自分や家族が患者になったときにかかりたい医師かどうか」**という視点で取材を行いました。

もちろん、推薦される医師情報に偏り（大学系列や研究グループ、上下関係など）がないよう、複数の医師から推薦情報（医師、診療内容など）を集め、それらを編集部で精査・クロスさせながら掲載医師を決定しました。

こうした地道な医師への直接取材を積み重ねることで、「アンケート」「手術数」「生存率」だけでは分からない、個々の患者に最適ながん治療を行っている専門医を選定しています。

あなたの主治医を見つけるために——本書の特色

- ✓ **がんについて実力医師93人の最新治療や実績・成績などを、専門医への直接取材で公開**

ほぼ全身のがんを部位別に、各専門医に直接会って取材し、収集した情報にもとづいて、最新の診断・治療法、実績・成績などを公開しています。

- ✓ **広島をリードする「最新治療のトップランナー」、4人の名医（施設）を紹介!**

巻頭レポートでは、**「がんゲノム医療の第一人者」「広島で受けられる最新のがん放射線治療」**など、最新治療の第一人者・4人（施設）をレポート。

- ✓ **乳がん・婦人科がんなど、最新治療の動向を詳しく解説**

乳がん・婦人科がんの掲載ページでは、女性の病気に関する最新治療の内容や検査法、日頃から気をつけたいことなどを、県下の第一人者が詳しく解説しています。

- ✓ **より良い治療を受けるためのインタビュー記事を掲載**

巻末トピックスでは、**「元気に長生きするためのヒント」「人間ドックやPET検診で気をつけたいこと」**など、がんになったとき、またはがんにならないように日頃から気をつけるべきこと、本当に良い医療を受けるための心得などを、専門医たちが詳しく解説しています。

- ✓ **実力医師たちを、各2ページで読みやすく・分かりやすく紹介**

前回シリーズまでは、各医師を1ページで紹介していましたが、活字

を大きくして情報をより読みやすく・分かりやすく伝えるために、医師1人＝2ページで紹介しています。

本書・刊行にあたって

✓ 調査の方法

13人から構成された「医療情報取材チーム」を編成し、専門医に直接会って、治療方針や手術方法、実績・成績などを取材するとともに、信頼感・定評のある専門医の名前を可能なかぎりあげてもらい、治療レベルや医師としての姿勢などをお互いに評価してもらいました。

✓ 掲載の基準

集めた情報にもとづいて編集部で協議し、大学系列をはじめ研究会グループ、上下関係による情報の偏りなども念頭におき、できるかぎり公平に情報を検討して、掲載医師を決定しました。

〈 評価の基準 〉

- ① 専門医のあいだで定評があるか。
- ② 臨床の最前線で治療に携わっているか。
- ③ 患者目線で医療を実践しているか。
- ④ 他科や開業医とのスムーズな連携が取れているか。

✓ ご利用にあたって

本書掲載の医師は、編集部からみた「一つの評価」にすぎません。他にも優れた医師はいます。この情報を鵜呑みにしないで、医者選びの「一つの判断材料」としてご利用ください。